

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (学 術)	氏名 Author	NYI NYI HTWE
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目 Title of Dissertation Trade Agreements, Investment Treaties, and International Integration			
論文審査担当者 Dissertation Committee Member			
主 査 Committee Chair	柿 中 真	広島大学大学院国際協力研究科 教授	印 Seal
審査委員 Committee	市 橋 勝	広島大学大学院国際協力研究科 教授	
審査委員 Committee	Maharjan, Keshav Lall	広島大学大学院国際協力研究科 教授	
審査委員 Committee	高 橋 新 吾	広島大学大学院国際協力研究科 准教授	
審査委員 Committee	Ching-Yang Lin	国際大学大学院国際関係学研究科 准教授	
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review 本博士学位論文は、国際貿易協定を中心に国際貿易に関する諸問題について考察している。近年、経済統合が進展しつつある国際経済において、先進国間のみならず先進国・開発途上国間、開発途上国間で貿易協定が締結されている。そのような貿易協定の役割を分析することは、学術的のみならず政策的にも重要性の高い課題である。国際経済学及び国際関係論の分野における先行研究を踏まえた上で、国際貿易協定を中心に三つの重要な課題に対して、ネットワーク分析及び計量経済学手法を応用して実証研究を行っている。一つ目は貿易協定と投資協定の相互依存関係に関する研究、二つ目は二国間と多国間の二種類の貿易協定に関する研究、三つ目は特惠貿易協定と二国間貿易(最終財輸出、中間財輸出、国内付加価値(value added to gross export))との関係性に関する研究である。それぞれの研究課題は新規性・重要性が高く、国際経済学の視点に立った研究結果及び研究含意を導出したことは非常に高く評価できる。本博士学位論文は5章から構成されている。 序 章：導入 第2章：貿易協定と投資協定の相互依存関係に関する研究 第3章：二国間と多国間の二種類の貿易協定に関する研究 第4章：特惠貿易協定と最終財・中間財輸出・国内付加価値との関係性に関する研究 終 章：結論 主な内容は以下のとおりである。第二章では、重要性が増している二国間貿易・投資関係を議論するために、貿易協定と投資協定の相互依存関係について、動学ネットワーク (SAOM) 分析を応用して動学的に考察している。主な研究結果としては、投資協定は貿易協定を推進するものの、貿易協定は投資協定を推進しないことが示された。この結果は、国家間における投資関係と貿易関係の相互依存が重要視されている中、重要な政策的含意を示している。第三章では、二国間と多国間の二種類の貿易協定と二国間貿易の関係について、理論モデルを基に、計量経済学手法を応用して実証研究を行なっている。主な研究結果としては、南南貿易では多国間協定、南北貿易では二国間協定が開発途上国の輸出に大きく関係していることが示された。さらに、第四章は、開発途上国では重要な国際協定である互惠的ではない(non-reciprocal)特惠貿易協定に着目した上で、特惠貿易協定と二国間貿易(最終財輸出、中間財輸出、国内付加価値(value added to gross export))との関係性を、理論モデルを基に、計量経済学手法を応用して実証研究を行なっている。主な結果としては、開発途上国において、特惠貿易協定と最終財輸出との関係性は見られなかったものの、特惠貿易協定と中間財輸出・国内付加価値との間には有意に正の関係があることが示された。 第二章に関しては、Impact factor 付国際学術雑誌である Social Networks に受理され、出版されている。第三章については、Impact factor 付国際学術雑誌に投稿し、現在、レビュー中である。第四章については、Impact factor 付国際学術雑誌に投稿する予定である。これまでの研究を踏まえ、国際貿易と投資・貿易政策に関する主要政策課題を体系的に構築・分析し、重要な政策含意を導出していることは高く評価される。さらに、本研究は平和で共生を有する国際システムの構築の考察に寄与している。以上の結果、試験委員全員一致で、申請者が博士(学術)の学位を授与されるに十分な学識と能力を有しているものと認め、合格と判定した。			